

- 場所：劔岳・立山
- 期間：平成21年（2009年）8月11日～18日
- 参加者：寺司（3年、CL）、佐藤（M2、SL）、甲斐、小須田、立川、田中、早川（2年）、重松、竹下、古澤（1年）

行動概要

- 8月10日 昼発
- 11日 室堂～真砂沢
- 12日 雪上訓練（長次郎谷にて）
- 13日 雪上訓練（劔沢にて、悪天候によりすぐ撤退）
- 14日 八峰VI峰Cフェース登攀・雄山縦走
- 15日 源次郎尾根縦走・雄山縦走
- 16日 劔沢の診療所へ（早川がやけどにより下山）
- 17日 雪上訓練
- 18日 BC～室堂

雪訓：アイゼンによる歩行訓練・ピッケルストップ5種（基本姿勢、滑り台、うつ伏せ逆さ、仰向け逆さその1・その2）・制動確保4種（肩がらみ、腰がらみ、ピッケルグリップ、スタンディングアックスビレー）・コンテ1種（ループ突き刺し）

行動記録

初日（8/11）入山日 晴れ

4:30 電鉄富山 朝食～5:44 出発～6:35 立山～7:20 出発 ケーブルカー～7:27 美女平～9:05 ホテル立山～9:35 雷鳥沢CS 歩くペースの差から2隊に分かれる～11:32 劔御前小屋～12:00 合流 友野さんとお会いする～12:28 出発～12:55 劔沢警備派出所～13:50 劔沢大雪溪西端 ピッケルを装備、アイゼンは装着せず～15:25 真砂沢ヒュッテ

天候はおおむね良好。午後にごく短時間小雨がぱらついていた以外は晴れており、湿度も低めで爽やかだった。気温は天気相応といったところ。

最終日にはボロボロになる雪溪も、この時点では表面がしっかりしており、クレバスも2ヶ所ほどしか見当たらなかった。

ただ、前日が電車内での睡眠だったためか、不慣れな1年生を中心にバテが早いメンバーもいた。また雷鳥坂で負荷分けを行うなど、体力面での不安を感じるスタートとなった。

余談だが、立山駅の近くに「五十嶋商店」という店がある。今回のように合宿途中に補給を行いたい場合、下山日を伝えた上で必要な物資のメモを渡すとそろえてくれる。地上に比べれば割高だが、わざわざ降りる手間と費用を考えればかなりお手軽である。（小須田）

2日目 8月12日 雪訓 晴れ、夕方から雨

4時起床し、それぞれのテントで朝食を食べ、5時に出発する。途中、重松が具合が悪く、寺司先輩とテントに引き返す。そして、あとのメンバーは先に進み、6時40分にガレ場で寺司先輩を待つこと

に。7時30分頃に合流し、8時20分に雪訓場に到着。やりたかった場所では、他のグループが雪訓をすでにしていた。残念。9時48分バケツをつくり、斜面を平らにした。2レーン作ったが、実際は1レーンしか使わなかった。そして、5種類のピッケルストップの練習開始。まずは、佐藤先輩が手本を見せてくれた。それを見て、みんなが練習。滑り出して、先輩が「ストップ」と言って、ピッケルストップ発動。ここで、小須田と古澤のレインコートが悲惨なことに。古澤のレインコートはボロボロに。そして、小須田にさらなる悲劇が。堅い雪の塊に股間強打。必死に苦しむ小須田。それを見て、みんな必死で斜面を平らにする。子孫を残すためにみんな必死！必死！もちろん僕も。

午後からテストが行われた。3回連続で成功したら、次にいく流れ。途中で失敗したら、失敗したやつを1からやり直しになる。ここで、甲斐がまさかの連続ミス。そして、早川がまさかの連続成功。しかし、早川は「ラッコ」が一度も出来ず、先輩たちに大きなダメージを与えてしまった。すみません。朝日が1番乗り。そして、小須田。

ここで切り上げ、次に肩がらみ・腰がらみを行った。落ち役に寺司先輩・立川。次に佐藤先輩がスタンディングアックスビレイなどを実演し、15時頃に下山開始。18時頃に夕食を作っていると、雨が降ってきて、テントの中で作ることに。完成したころには、止んでいたから、外で食べた。そして、この日は就寝。(早川)

3日目 8月13日 雪訓→撤退 雨

4時起床し、朝食を食べ、5時に昨日の雪訓場に出発。小さな雨が降っていた。そのまま進んでいたが、雨が強くなってきたため、7時15分引き返すことに。剣沢で雪訓をすることに。強い雨の中、みんなで斜面を平らにする。斜面が平らになった9時26分に雨のためテントに帰ることに。沈殿決定。めっちゃ寒かったから、うれしかった。10時41分テントに着き、寺司班はお湯を沸かし、いろんな話をした。11時50分佐藤班テントにみんな集まって、トランプ。ばば抜きは10人でやるとめっちゃ時間がかかる。その後それぞれのテントに戻り、夕食を食べ、この日は就寝。沈殿は思った以上に暇だった。(早川)

4日目 8月14日 八峰登攀 快晴 (佐藤、寺司、甲斐、小須田、立川、竹下)

3:00 起床、4:10 真砂沢 BC 出発～4:25 長次郎谷との出合～5:33 I IIのコル入口付近の岩場～7:45A フェースとりつきの近くのガレ場～8:20C フェースとりつき～14:30C フェース登攀終了～17:00 懸垂下降点～19:00 真砂沢 BC

いよいよ登攀が始まる。昨日は雨だったがどうやら今日は晴れそうだ。3:00に起床し雑煮を急いで食べて出発の準備を行い、4:10に出発。すでに何度も通った道をまた通り、長次郎谷との出合いで雄山縦走班と別れて長次郎谷を登る。一部のメンバーはアイゼンを装着して急いでとりつきに向かう。5:40ごろやっとI IIのコルの入り口に到着。雪渓からシュルントを渡ろうと右の岩に近づいたその時だった。何かが爆発したかのような轟音が響き、シュルントが崩れた！先頭を歩いていた佐藤先輩、立川の目の前から崩れたが、二人はさっと後退し無事だった。しかし予想もしない事態に非常に誰もが驚いていた。とりあえず少し離れた休憩のできる岩場に移り、今後どうするかを話し合う。下半部へのとりつきが難しくなったこと、お盆で人が多く時間的にも不安があったこと、何より目の前で起こったことに皆がビビってしまったことなどにより、下半部は諦め上半部だけを目指すこととなった。8:20やっとCフェースのとりつきに到着。すでに数パーティが準備をされていて、順番待ちをすることとなった。ま

ず、佐藤—立川—小須田が登り寺司—竹下—甲斐が後に続く形で出発。しかし出発までに2時間近くかかってしまった。出発するも、途中でつかえてしまっており待つ時間が大半を占める。登る途中あたりを見渡すと雲ひとつなく、最高の景色であった。途中怖い箇所もあったがそれほど難しくはなく、さくさくと進んでいく。14:30頃やつのことで寺司班も登り終える。予想以上に時間もかかってしまい、すぐに帰ることになった。急いで下降地点に向かったが、下降を始めた場所は以前他のパーティが間違っただけで作ってしまった支点であり、先に降りた佐藤先輩が下で道を探すが、どうしても崖に降りてしまい、行けそうにない。そこで、降りてしまった佐藤先輩・小須田登り返すことに、そしてほかの下降点に向かった。時間的に余裕もなく、もたもたしているとビバークの恐れさえもあったので、皆さっさと下降し真砂沢BCへ急ぐ。どうにか日没までにはBCへたどり着くことができた。(甲斐)

4日目(8/14)～雄山ロングラン～ 快晴 (田中、早川、重松、古澤)

4日目は、八峰縦走組と雄山ロングランに分かれた。

朝は3時起床で朝食に雑煮を食べる。餅を入れたため少々時間がかかったが、シイタケの味がよく出た美味しい雑煮だった。4時過ぎに真砂沢キャンプ場出発。1時間ほど雪渓を歩いたところで、八峰縦走組と雄山ロングラン組に分かれる。

この辺りから重松のアイゼンの調子が悪くなる。すぐに外れるため田中先輩と早川先輩のアイゼンと交換しながら雪渓を登ってみるが、上手いいかない。仕方なくアイゼンなしで登ったため、小屋に到着したのは7時50分だった。重松の体長不良で雄山まで行くか悩むも、とりあえず行ける所まで行くことにする。尾根に登り上がったのが9時半。休憩を入れながらゆっくり進む。真砂岳に着いたのが10時20分。雄山着が11時55分だったので無線の準備をする。しかし、電池がきれていたのか電源入らず。次の1時に連絡することにする。山頂では各人が思い思いに休憩する。古澤は座ったまま寝ていた。あまりに観光客が多いため、山頂を踏むのは断念する。12時25分、雄山を後にする。1時に定時連絡を試みるもうまくいかなかった。最後の2時に賭ける。2時に無線をつけると立川先輩と連絡がとれた。八峰組はCフェースにいるとのこと。連絡がとれたのであとは帰るだけだが、休憩をちょこちょこつてもらいながらで、結局真砂沢キャンプ場に着いたのは5時40分だった。

予定よりだいぶ遅くなってしまったので八峰組は先に着いていると思っていたら、まだ帰ってきていなかった。少し心配し始める。しばらく経っても帰ってこないで、先に晩御飯を食べておくことにする。7時になっても帰ってこなかったら無線で連絡しなければならなかったもので、6時過ぎた辺りから本格的に心配しだす。そろそろ無線で連絡の準備を…とと思っているところに竹下が帰ってくる。7時5分前、ギリギリセーフ。人が多くて思うように進めなかったそう。何もなくて何より。無事に4日目が終わった。(重松)

5日目 8月15日 源次郎尾根縦走 (佐藤、寺司、田中、早川、古澤)

本日は私田中にとって最大の受難の日。寺司先輩、佐藤先輩と、昨日の雄山ロングランのメンバーの田中、早川、古澤の5人で源次郎尾根縦走、甲斐、立川、小須田、朝日の4人で雄山ロングラン。重松は体調不良のために沈殿することに。昨日と同じく3時起床。朝食は棒ラーメン。流石に飽きてきた…。予定通り4時頃出発。ザイルを任せられザックが重そうな早川を案ずる余裕など田中にはない。本日のロングラン組と分かれ5時40分、明るくなってきた頃に尾根の末端に到着。休憩後ピッケルをしまい、過酷な日帰り旅行の始まり。暫くはザイルを使用せずとも問題のない程度の傾斜が続く。が、木の枝に

ピッケルが引っ掛かって煩わしいことこの上ない。進んだ先には、田中にとって最初の劔の洗礼、巨大な岩が立ちはだかっていた。田中以外が難なく越えていく中、私田中は先輩の助けを借りて何とか事なきを得た。暫し進むと第二の洗礼が。ザイルなしでは厳しく、古澤がビレイシ佐藤先輩がトップ、残りのメンバーはザイルにスリングを巻き結びにして、スタカットで登る。ここでも田中は先輩の力で何とか登り切るが、随分と時間を消費してしまったようだ。開始が6時10分で、全員が登り終えたのは7時30分。まだ劔までの行程の1/3も終わってないと言うのに、2度の洗礼を受け既に満身創痍の私。もうヤダよお(; ω ;)と、泣き言も言っておられず、休憩後出発。救いだっただのは佐藤先輩の言葉通り、そこから先はそれほどの急登がなかったこと。相変わらずピッケルが引っ掛かるものの順調に進み、2度の休憩を挟んで最初のピークに到達。そこからは急な下りが続き、再び登り、第二のピークに到着。田中にとって第三の洗礼の 때가 近づく。休憩後少し進んで10時20分、私にとって悪い思い出しかない懸垂下降場が((((; ㏎ ;)))ガクガクブルブル先輩に写真撮って下さいと頼んで下りるほどの余裕を見せる早川、古澤に対して懸垂下降にトラウマを持つ田中はここでも足手まといに(ノ ㏎。)あとは劔本峰のピークを目指して、平蔵谷沿いにひたすら登るだけ。ちょうど正午を回った頃に一度休憩を挟み、12時20分、遂に劔岳登頂。13時頃下山開始。安心してた矢先、第四の試練が。一般道とは思えぬ切り立った道が続く。またも足手まといになる私(ノ ㏎。)前劔付近にて一旦休憩。謎のオジさんたちに跡をつけられながら、一服劔にて再び休憩。劔山荘を目前に、ほぼ全員の水が尽き始める中、何故か古澤のプラティパスにだけはたんまり残っていた。15時10分、劔山荘に到着。各々水を補給し、後は雪渓を下るのみ。途中アイゼンの金具が外れるアクシデントもあったが、17時過ぎに漸く真砂沢BCに無事到着。(田中)

5日目 8月15日 雄山ロングラン 快晴(甲斐、立川、竹下)

AM3:00 起床 小須田先輩が足の怪我のため沈殿。雄山ロングラン参加者は甲斐先輩、立川先輩、竹下の3名

AM4:06 出発 源次郎組と平蔵谷分岐地点まで行動。重松が体調不良のため沈殿とのこと。

AM4:21 休憩 岩場にてアイゼン装着

AM5:01 分岐点着 源次郎組と別れる。雄山組はすぐに出発。源次郎組は取り付き地点にしばらくいた様子。

AM5:40 劔沢終了 アイゼン外す。ペースよく雪渓を歩いた。途中1度の休憩をいれた。

AM6:30 劔沢小屋着 小屋の方がラジオ体操中・・・甲斐先輩が参加。二人もしばらく見ていたが、小屋の方に誘われ参加。劔を前にしてのラジオ体操。

AM7:00 劔沢小屋出発

AM7:21 別山への分岐地点着 ここからしばらくののぼりが始まる。まだ雄山は見えず。

AM7:53 別山山頂 ゆっくりと休憩を取る。真砂岳が見えた。

AM8:49 真砂岳山頂 帰りはエスケープしようかと相談する。雄山までの最後ののぼりが見えた。

AM9:45 富士ノ折立分岐点着 折立には寄らず、雄山を目指す。観光客多し。

AM10:12 大汝山山頂 山頂までの道が細く、観光客であふれていた。山頂は岩場。竹下には人生初の3000m級の山。

AM10:26 雄山目前 あまりの観光客の多さ+参拝料500円に登頂断念。Uターンすることに。富士ノ折立からここまでデポしてのピストン

AM11:30 富士ノ折立 予定より山行が早くすすんでいたため、30分の昼寝を。あまりの気持ちよさにあやうく寝過ぎすところであった。

PM0:13 出発 帰りはさらに速いペースで進んだ。源次郎組はどうしているだろうかなどと話す。

PM1:13 別山への分岐地点着 真砂岳、別山はエスケープ。

PM2:00 剣沢小屋着 水補充。休憩もそこそこに真砂沢BCを目指す。

PM2:41 剣沢に取り付き アイゼン装着。日に日に雪溪の状態が悪くなっているような・・・慎重にすすむ。

PM3:18 岩場取り付き アイゼン外す。かなり早いペースで進めた。

PM3:37 帰幕 源次郎組は未だ帰らず。小須田先輩は1日新メニューを考えていたとのこと。重松の体調も良くなっていた。(竹下)

6日目 8月16日 剣沢の診療所へ

03:00 ステラリッジテント起床——03:40 V6 テント起床——04:09 真砂沢ロッジ出発——04:45 長次郎谷出合手前にてアイゼン装着——05:45 剣沢雪溪西端にてアイゼン外す——06:25 剣沢野営管理所到着——08:00 頃 早川下山開始(甲斐同伴) ——14:10 甲斐帰還——14:15 剣沢野営管理所出発——時間不詳 真砂沢ロッジ到着

連日の好天。喜ばしい限りであるが、V6 テント全員がまさかの寝坊。申し訳無い以外に表現のしようがありません。予定時間より遅れてはチンネへ行くとビバークが避けられないだろうとの判断から、全員で大日三山ロングランをすることに予定変更。V6 テントは時間短縮のため朝食をエッセンで済ませたが、やはり理想的にはきちんと食事を取って体を内側から目覚めさせた方がよいだろう。雪溪ではアイゼンを装着したが、この日は前々日にトラブルの多かった重松のアイゼンも急に外れるということではなかった。ただ、本人は先頭から離されてしまう。こまめに休憩を取りつつ進み、雪溪を抜けるとアイゼンを外した。剣沢野営管理所に間もなく到着という頃、重松ダウン。ひとまず上級生が付き添い診療所へ。その他の者は診療所や管理所の方々ラジオ体操。重松の次は早川が受診。結果、重松は疲労と風邪、早川はⅡ度の火傷と同程度の日焼け、水泡と腫脹とのこと。この時点で早川の下山が確定、重松は薬を処方され定着合宿終了まで行動を共にすることに。休憩・歩荷分けの後、甲斐の付き添いで早川下山。残った者は縦走合宿の予定変更について話し合った後、思い思いにボルダリングなどをして過ごす。甲斐到着後、パーティーは剣沢野営管理所を出発、真砂沢へ帰幕の途についた。なお、V6に残された早川の荷物は定着合宿下山日に郵送することとなった。(文責・1年古澤、敬称略)

7日目 8月17日 雪訓

4:00 起床～5:01 出発～5:18 源次郎谷との出合～6:00 平蔵谷との出合 雪訓 ～11:58 真砂沢BC

雪訓の2日目が雨で何もできなかったなので、この日に続きを行った。場所は平蔵谷との出合の少し上のほうの右岸で行った。雪溪が固く、レーンづくりには時間がかかった。凍った部分が多かったが、これを取り除かなければ大切なものが失われかねない。傾斜はそれほどなく、皆順調に練習していく。僕も前回の汚名返上とばかりにがんばる。ピッケルストップのテストもみな無事にクリアして、制動確保に移る。ここでは落ち役演技が光る。うまい落ち役はフェイントまでかけてくるから大変だった。助演男優賞は古澤か立川がとったみたいだった。制動確保も順調に練習していった。ただし、雪溪が固くピッケルが刺さらなかったのでスタンディングアクセスは持ち越しとなった。昼までには真砂沢BCに着き、昼飯を作って食べた。それから結構暇でほかのテントの人から借りた雑誌を読んだり、昼寝したり、おしゃべりをしたりしながら夕飯の時間を待った。夕方になって、友野先輩と合流した。ビールやおつまみを御馳走になり、さらにいろいろなお話をさせていただいた。テントにも来

ていただき、たくさんお話をした。夕飯は何だったか忘れたがおいしかったと思う。今回の飯は最高だった。小須田・古澤ともに米の炊き方を熟知しており、毎回心も残さず、焦げ付けさせもせずに上手に炊き上げてくれた。
(甲斐)

8日目 8月18日 下山日

3:30 起床、5:10 出発～6:11 平蔵谷との出会い～6:50 雪溪の出口～7:50 剣沢小屋～8:55 別山との分岐～9:49 御前小屋～11:15 雷鳥平キャンプ場～13:20 室堂

真砂沢での定着も終わり、皆で協力して速やかにテントをたたむ。そして、友野先輩と記念撮影をして、お別れをした。それからゆっくりと雪溪を登ってゆく。体調の悪いメンバーがいるのでところどころ休憩を多くとりながら登ってゆく。9:49 やっと登りきった。ここまでくればあとは下りだけだ。ゆっくり下り、雷鳥平のキャンプ場に着く。縦走に行くメンバーはここでテント泊をするため、テントを張る。ピッケルなどの縦走に持っていかない物を定着だけで帰るメンバーに渡し、室堂に向かう。ここから室堂までも少し坂になっていて、重いザックをからって登るのは結構しんどかった。13:20 やつとのことで室堂に到着、縦走に行くメンバーと別れてバスに乗って山を後にした。(甲斐)

2009年 夏山合宿 各係における評価

CL 寺司

反省すべき点は3つある。まず合宿前。計画書を完成するのが遅かった。このため、計画を十分に熟考できず、雪溪の不良などの事態に積極的な対処が出来なかった。また部員達のテスト期間中にまで延びてしまった。今回計画には6月の中旬から取り組んだが、できれば新体制発足時から考える必要があるように思う。

合宿前でもうひとつ。日頃のトレーニングが甘かった。合宿前に立てた計画の7割程度しかこなせなかったのは、体力不足に原因があるのは自明である。ただ部としてのトレーニングには限界があるため、今後は部員個人個人で鍛錬することを奨励したい。

最後は合宿中。部員一人一人に十分に目を行き届かせることができていなかったように思う。結果として日焼けによるやけどへの対処の遅れなどといったことを招いてしまった。

以上三つの点がチーフリーダーとして至らなかったことであり、力量不足であり、反省すべき点である。来年の夏山のリーダーとなる者は、これらのリーダー寺司の失敗を他山の石と思って十分に生かしてほしい。

SL 佐藤

今回の定着は、負傷者の多い合宿となってしまった。合宿直前にはなるべく無理をせず、体を休めるように心がけること、また紫外線対策は特にしっかりすることを徹底したい。体調不良で活動できないのは本当にもったいないので。活動内容については、部員のレベルにあった活動ができていたと思う。慣れない環境へのストレスも数をこなすうちになれていくので、今回あまり活動できなかった人も諦めずに次回以降へつなげてほしいと思う。

今回サブリーダーとして一番反省すべき点は、出しゃばりすぎてしまった点にあると考えている。寺司にもっと任せても良かった。秋以降の活動では、各メンバーがリーダーシップをさらに高められるようなサポートをしていきたい。

記録 甲斐

自分は記録係だったが、たまに取り忘れていることがあり、他に記録を取っているメンバーに聞いたりしてしまった。特に、雨が降ったりすると記録を取るのがすごく面倒になったりした。行動をもっと余裕を持ってこなせるように、体力をもっとつけるとともに、ふだんから記録を取ることをもっと習慣づけておく必要があると感じた。

食料 小須田

まず言えるのが、手抜きによる失敗の多さである。夕食に「シチューパスタ」をいれてみたはいいが、当日は雪上訓練で疲れ切っており、薄めに作っただけのシチューに乾麺を投入して見事に焦がした。本来なら別ゆですべきところである。その他にも、手順を正し

く踏まなかったために小さなミスを繰り返しており、反省すべき点として自覚している。

改善の方法としては、今回一部のメニューにしか作成しなかったレシピを充実させ、メンバーに概要を認識してもらうことが挙げられる。それにより、作業の分担がスムーズになり負担が軽減されるほか、監視の目ができるため独断での手抜きが発生しにくくなると考えられるからだ。

つぎに食材について。今回の合宿で用意した食材は、米、餅、乾麺4種、小麦粉、ルウ3種、野菜5種、缶詰2種、干しシイタケ、ソーセージ、ダシ・スープ系7種、ほか調味料類。山でのメニューはワンパターンになりがちであるが、持参できる食材の種類が貧弱なのが原因の一つだと実感した。これは感触だが、今回は旬を外したために避けたサツマイモ、夏野菜のカボチャ、保存食の梅干し、ゴボウやレンコンなどの根菜類、そのほか乾燥海藻なども追加できると思う。また、今回はメニューからカルシウム、マグネシウムなどの無機質、ビタミンD・Eの不足を感じたためアーモンドフィッシュや素炒り大豆を全員分持参したが、今後もさらに不足栄養素を見出して考慮していきたい。

最後に食材管理について。長期間持ち運ぶため、多少痛むのは仕方ないと思うが、保管方法を確立すべきだと思う。特にタマネギなどは外力に弱く、今回もつぶれたために痛み始めたものがいくつかあった。具体的な方法はこれから模索したい。

今回、初めて食事を担当したが、計算ミスなどを連発してメンバーに迷惑をかけてしまった。再び食事係をすることがあれば、今回の反省を生かしたい。また、普段から調理技術の向上に努めたいとも思う。

食料2 古澤

新歓合宿に参加していない私にとっては初の長期合宿であった。そこで食事係として学んだことは多い。特に感じたのが、(当然のことなのだが) 下界での調理と山での調理は違うということだ。

下界での調理——特に夕食——は、調理時間に制限が無いことが多いが、山ではそうはいかない。山行でお腹を空かせた部員たちを待たせることが心苦しいのももちろんだが、山ではのんびり調理しては日が暮れてしまい暗闇の中食事することになってしまう。また、調理器具も限られている中で、最小限の労力で出来るだけ満足のいく料理を作らなくてはならない。他にも、後始末の簡便さまでをも考慮して調理しなければならないのだから、ある面下界で新しいレシピに挑戦するのよりも難しい。

そんな壁に直面し、私は実力不足を痛感した。今後の課題は短時間でいかに効率よく調理を進めるか、だろう。また、献立についても常にアンテナを張り、様々な情報を吸収・利用し、また普段から山でのことも頭の隅に置きながら自炊することでより良いものを考案していきたい。ひとつ、この合宿でよかったのは米の炊き方をマスター、とまではいかなかったりかなり上達させられたことだ。芯米食事係、もとい新米食事係はもうすぐ脱却できそうである。

装備 田中

入山後はほとんど出番がなかったので、ほぼないと言えるのではないだろうか。装備表に載せた装備でほぼ事足りた。もっとも歩荷分けは部長と自分を中心に全員で慎重にやることになるので、寧ろ不備があっては問題だろう。自分は冬合宿には参加しないと思うが、装備係の仕事はこれからもしっかりやっっていこうと思う。

医療 早川

今回の反省は、僕自身にあまり医療の知識がなかったこと。今回、医療箱に入れていたのは今まであったやつ+足りないのを補充、したくらいだったから、もっと勉強してより重要なものをもっと入れておくべきだと思った。そして、絆創膏はもっと入れておくべきだった。とりあえず、医療の知識を得ることが、今やるべきことだと考える。

記録・気象 竹下朝日

今回の夏合宿で私は記録・気象係に任命されました。記録は個人として行うものですが、気象の方は重松のサポート(足手まとい?)となっていました。

まずは、記録係としての反省から。合宿全体を通して記録係としての仕事は良くできたと思います。どこどこに到着するごとに、休憩を取るごとに時間を記録していきました。先輩方から「ちょっと記録見せてくれ」といわれる度に、自分の仕事が部の役に立っているという充実感を得ました。ただ、今回の合宿ではひとつだけ問題が残りました。出発前に購入した腕時計をすぐに壊してしまい、置時計にしてしまったため、すぐに時間を確認することが面倒になり、どうしても周りの人に時間を聞くという場面が多くなってしまいました。次回からは腕に時計をつけ、いつでも時間確認をできるようにします。

つぎに、気象係としての反省を。こちらのほうは記録係と正反対でほとんど仕事らしい仕事をする事ができませんでした。ラジオの調子が悪く、天気予報が聞きづらいということもありましたが、いつも重松に頼ってばかりでした。書こうと思えば、なんとか書くこともできるのですが、知識と経験がないために、重松ほど細かな天気図を書くことができず、それが書くことを嫌がらせていたように感じます。縦走の時には重松が不参加で自分だけが気象係となったため、何度か書きましたが、それでも予報はなんとなくしかできませんでした。今回の合宿の反省から、この夏には気象の勉強、天気図の勉強をして、自分が気象係として仕事ができるようになります。

記録・気象 重松

記録係りとしての仕事は不十分でした。普段の活動の時から記録をとる習慣をつけておかないといけないと思いました。動きを機敏にして活動にゆとりをもたせられるようにしたいと思います。おおざっぱだったので、細かく記録をとってきちんとした報告ができる

ようにすることを目標にします。

気象の仕事は、ラジオの電波が入るように方法を考えないといけないと思いました。電波が入った時はきちんと予報ができたのでよかったです。もっと予報の正確さを高めるように、気象の勉強を進めておきたいと思います。

2009年夏山合宿 感想・反省

寺司

定着合宿は楽しい。空荷で行動できて、テントはいちいち張る必要がなく、早い時間に行動が終わればのんびりとした時間を過ごせる。この楽しさを感じることができたのが、今合宿の成果だと思う。あるいは、北アルプスで登攀、バリエーションルート山行をして自分たちの力量を測ることができたのが大いなる収穫である。

今回の山行では大いなる劔岳の、氷山の（岩山の）一角しか見ていない。来年再来年とここに来ることができれば、と思う。

甲斐

はじめての定着合宿。いろいろと不安だったが、まず皆が無事に合宿を終えたことが何よりだと思った。自分は定着のみの参加となってしまったが、非常に充実した合宿であったと思う。初めて間近にする劔岳、本当にあんなところに登っていくことができるのだろうかと思うほどの険しさだった。また、この時期にも関わらずしっかりと残っている雪渓にも驚いた。冬山のふかふかした雪とは全く違い、本当につるつると滑った。雪上訓練は結構な傾斜のところで行ったので、勢いがついて怖くてなかなか思うようにはいかず何度も何度も繰り返した。今回は定着ということで軽い装備での行動が多かったので、体力的には余裕があった。しかし、先輩方は自分たちよりずっと重いザックを担いでいたので、自分もそれに耐えうるように体力トレーニングを怠らないようにしなければならぬと感じた。自分は記録係だったが、たまに取り忘れていたことがあり、他に記録を取っているメンバーに聞いたりしてしまった。特に、雨が降ったりすると記録を取るのがすごく面倒になったりした。ふだんから記録を取ることをもっと習慣づけ手奥必要があると感じた。

田中

全行程を無事に終えることができ、全体を通して反省点は少ないと思うが、一つに、重松が参加できなかったこと。高山病のような症状が出ていたことも確かだが、前日の雄山ロングランでアイゼンが何度も外れ、結局重松のみアイゼンなしで雪渓を登ったこともあり、体力の消耗も激しかったようだ。ロングランはもう少し近場でもよかったのではないだろうか。二つに、早川の火傷。これが原因で後日急遽下山することになったことを考えると、自分を含めパーティーの誰かがあらかじめ日焼け止めを塗るよう全員に注意を促すべきであっただろう。三つ目は言うまでもなく、自分が足手まといになる局面が多かったことである・・・。

早川

この夏合宿は最高の経験だった。言いたいことはたくさんあるのだが、まずは反省点を述べたい。

① 日焼けについて

今回の合宿での一番の反省はこれである。今回は半袖の服で行動した。いつもは長袖で行動するのだが、今回は、暑いとあって、思い切って半袖にしてみた。いつもより肌を露出する分、日焼け止めをしっかりと塗っていた。僕は肌が人より弱いため、しっかり気をつけていた。ここまでは良かった。しかし、4日目の雄山縦走の時に、塗るのを忘れてしまったのだ。気付いたのは、14時頃だった。両腕が真っ赤になっていた。それから、急いで塗ったが、時すでに遅し。その日の夜頃から、水ぶくれができてしまった。しかし、その時は、水ぶくれとは気付かず、虫に刺されたのだとあって、あまり対処しなかった。そして、診療所で、日焼けと言われ、かなり重症と言われた。いわゆるドクターストップである。その日に下山した。荒木先輩が去年・今年と日焼けの研究発表を行っていた意味が、身に染みて分かった。そして、僕の肌の弱さも。

② 体力について

今回4日目までは調子が良かった。5日目の源次郎尾根縦走の時、ついて行けなかった。4日間以上の合宿が初めての僕にとっては、今までにない疲労感を感じた。そして、体力のなさをあらためて認識した日だった。もし、下山せずに北方稜線に行くことになっていたら、ついて行けたかどうか。その後の、縦走も行けたのだろうか。鍛えなければ。

③ 靴ずれについて

今回長期合宿ということで、僕が心配だったのは靴ずれだった。そのため、いろいろ対策はしていたつもりだった。しかし、4日目・5日目に靴ずれになってしまった。それでも我慢できるレベルだった。頑張れば行ける感じだった。しかし、6日目、痛かった。歩くのが厳しいほど。そして、親指も痛み出した。聞いてみれば、他の人たちも靴ずれに苦しんでいたようだ。これから気をつけるのは、もちろん靴ずれにならないように、今まで以上に対策すること。そして、靴ずれになったとしても、我慢できる人になりたい。

日焼け・体力不足・靴ずれの脅威を実感した合宿であった。しかし、今回の合宿、僕にとってはこんなマイナス要素だけを感じたのではない。むしろ、プラスの方がはるかに大きい。正直言うと、プラスしか感じなかった。その気持ちを次に述べる。

今回の夏合宿は僕の人生の中で、最も重要な経験のうちの一つになった。初めて北アルプスに行く僕にとって、「次につながる“何か”を見つけるきっかけを与えてくれる出来事」に出会うことは、ある程度は予期していた。春合宿の大山のように。その「きっかけを与えてくれる出来事」は予想以上に、僕の心に刻まれた。この合宿全体を通して刻まれたの

も事実である。

しかし、この合宿の中で、一番心に刻まれたのは、9月15日、源次郎尾根縦走。劔岳をあんなに苦労して登った、その事実がホントに大きい。途中何度もやめたいと思った。何度も死ぬのではないかと恐怖だった。もう、掴むものがなく、雑草10束に命を預けたこともあった。その雑草の強さに驚いた。とにかく、必死だった。まさに、生きようとして生きていた。そういう想いで登りきった劔岳。この過程と想いがあったからこそ、心に深く、深く刻まれた。

今回こんな体験ができてホントに良かった。後日“何か”も見つけることができた。合宿に参加でき、そして連れてってもらって良かった。みんなに感謝!!!

竹下

8月10日～26日北アルプスにて夏山合宿が行われました。自分にとっては最長の合宿であるとともに、初めての日本アルプスであったため非常に楽しみにしていました。

最初の1週間は劔岳周辺にての定着。やはり一番印象に残っているのは八峰登攀でした。難易度もそれほど高くはなく、ただ登ることだけを楽しめました。人が多く、待ち時間が長かったのは辛かったですが・・・また、雪上訓練もいい経験になりました。合羽がずたばろになるほど何度もすべりたおかげで形だけはまともになるようになりました。レーン作りやバケツ掘りもきつかったですが、楽しかったです。雄山ロングランでは、3人という少人数での行動であったため、いつもよりも早く気持ちよくすすむことができました。日程の変更で劔岳には登れませんでした。次回の楽しみにしたいと思います。

定着合宿では、テントに1年が自分だけというものもあり、先輩方に迷惑をかけないように常に先輩方の行動を見てまねするようにしました。そのおかげでテント生活にもかなり慣れることが出来ました。次回からの合宿ではこの経験を活かしたいと思います。

後半の1週間は槍ヶ岳を目指しての縦走。定着と違い、毎日のテント設営、撤収などが大変でした。山行自体は槍が徐々に近づいているのを感じたりと、非常に充実したものになりました。途中の薬師岳では暴風と雨と寒さにやられましたが・・・無事槍ヶ岳に登頂することもでき、これだけ長い距離を歩ききったという自信もつき、縦走のほうもいい経験になりました。帰りの青春18切符での福岡までの鈍行列車の旅はしんどかったですが^^;

夏山合宿全体を通して、自分の山男レベルはかなりあがったと実感しています。ただ、それでもまだまだ先輩方には追いつけていないので、徐々に先輩方のいいところを盗みつつ、自分のスタイルを作っていきたいとおもいます。

以上は+の感想でしたが、-の感想もあります。それは、「大丈夫」という言葉に関してで

す。今回の合宿は1日にもわたる長期合宿ということもあり、怪我、体調不良などが予想以上に多く見られました。そういった不良が見られた際に「私は大丈夫です」という言葉を何度も聞きましたが、結局大丈夫でなかった場合が多かったなど個人的には感じています。次回からの合宿では、まず自分がそういった事態にならないよう注意し、可能であればサポートにまで回れるようになりたいと思います。

古澤

前期の山岳部の活動目標であった夏合宿が終わった。予定通りに山行をこなせないこともあったが、それらのことを総合して思うのは、事前準備の重要性だ。事前準備、とくくってしまったが、具体的には「体力の向上」、「無線・応急処置等各種技術の習得」、「適切な道具の用意」だ。

「体力の向上」については、今回パーティーが分断してしまうことが多かったこと（私自身先頭から離されることもあった）がある。もちろん山行中は歩行技術が体力と同等に重要であるし、地上での筋持久力が山行での体力とイコールであるとも限らないが、もともと体力はあって困るものではない。「各種技術の習得」に関しては、今回軽・重傷者が複数出たこと、無線の使い方（アマチュア無線の慣例含む）をマスターしていなかったことなどがある。このことから私は後期中にアマチュア無線の免許取得、ファーストエイド・心肺蘇生法を、また個人的に天気図の書き方を習得したいと考えている。最後に「適切な道具の用意」については、完全に私個人の反省だが、雪訓用雨合羽・サブザックの選択ミス、ピッケルのテープ長の調節ミスがある。これは事前の想定が甘かったこともある一方で、経験や実地感覚があつてこそ確実性が生まれるのでは、との感もある。この反省は以後の活動に活かしていきたい。

総括して言えば、個人的に事前の不安も多く、また失敗も多くしてしまった合宿ではあったが、楽しくあつという間の2週間であった。…次回の合宿はきちんとレポートを済ませてから参加します…。

重松

今回の合宿で私は足手まといにしかありませんでした。大きな反省点です。今まで以上に体力強化に重点をおいた生活を、次の合宿に向けてこれからしていきたいと思います。迷惑かけてすみませんでした。荷物持ってくださいありがとうございました。

少ししか活動できませんでしたが、いい経験もできました。今回少しでも参加できて良かったです。周りの景色が本当に奇麗で、映画で見た剣岳も本物はもっと迫力がありました。雪渓を歩く経験も滅多に出来るものではないので、歩いてみるのができたのは良かったです。…ただ雪渓は好きになれそうにはありませんが。雪訓をしていないことと剣岳の山頂を踏んでないこと、縦走に参加できなかったことが心残りなので、またリベンジしたいです。

一緒に合宿に参加した方々、足りない装備を貸していただいたりお見送りをして下さったりした先輩やOBの方々、ありがとうございました。今回の合宿でできなかったことが次回できるように、成長します!!

佐藤

久しぶりの剣岳は、やっぱり厳しいものだった。雪渓、岩壁、縦走路、どれも簡単には登らせてくれず一苦勞した。しかしその甲斐あってたどり着いた山頂は温かく自分たちを迎えてくれた。近い将来、もう一度来ようと考えずにはいられなかった。

来年からは就職で愛知に引っ越します。アルプスにさらに近くなるので、登る機会をなるべく多く作りたいと思います。